

第2回部会において ご議論いただきたい事項

- 1 加工（国産加工原料果実の不足、新たな加工需要等について）
- 2 流通（出荷規格、梱包資材の見直し等について）
- 3 自然災害・気候変動・鳥獣害に強い産地づくり

令和元年12月

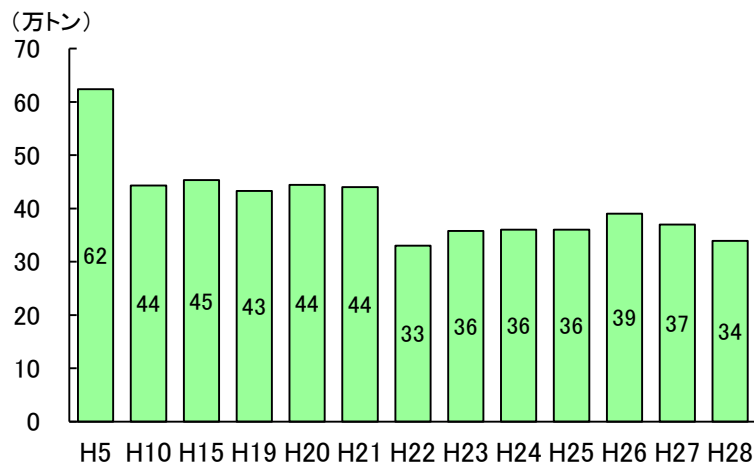
農林水産省



1 加工（国産加工原料果実の不足、新たな加工需要等について）

- 国産果実の加工仕向け量は減少している。これは、果実の生産量が減少していることや、生果の価格が高値傾向で推移しているためと考えられ、加工業者は原材料の確保が困難となっている。
- 一方、ワインブームで国産ぶどうの醸造用仕向け量が増加傾向で推移するなど、新たな加工需要の拡大もみられる。また、カットフルーツ等、消費者の簡便化嗜好は拡大しており、特に若い世代ほど果実加工品へのニーズは大きい。
- これらの加工ニーズに対応するためにも、国産の加工用原料果実を安定的に確保する体制作りが必要ではないか。

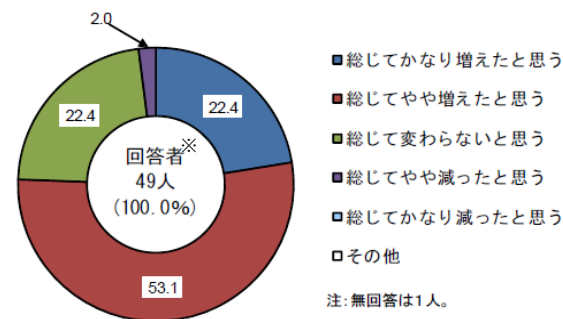
○ 国産果実の加工仕向け量の推移



○ 果汁加工事業者の声

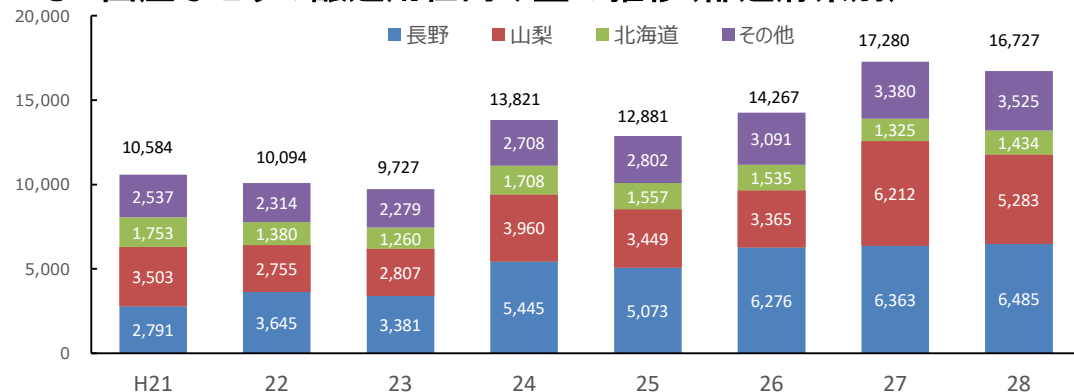
- ・加工用原料みかんの集荷数量が年々少なくなっている（良食味で規格外率も低く、ほとんどが生果仕向けに回ってしまう）。
- ・集荷数量の減少に伴い、運賃等の生産コストが高くなり、負担となっている。
- ・上記により、果汁工場の安定経営が困難になっている。

○ カットフルーツの販売量の変化

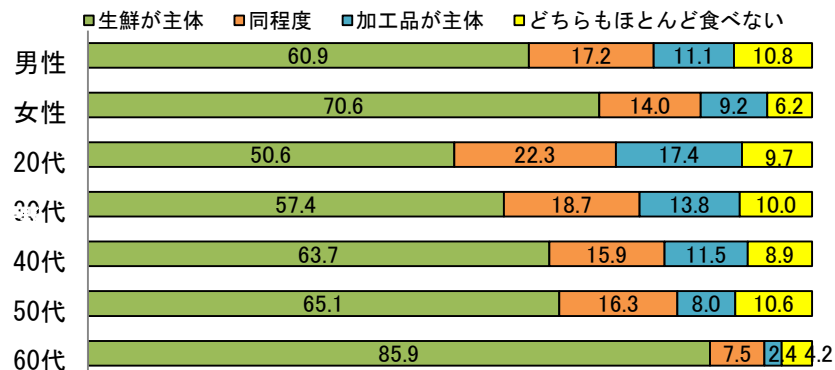


資料：平成26年度農林水産情報交流ネットワーク事業全国調査 カットフルーツの取扱いに関する意識・意向調査結果
※ 農林水産情報交流ネットワーク事業の流通加工業者モニター（食品小売業）を対象に実施

○ 国産ぶどうの醸造用仕向け量の推移（都道府県別）



○ 生鮮果実と果実加工品の購入度合い



2 流通（出荷規格、梱包資材の見直し等について）

- 流通現場においても、選果場や輸送業者の労働力不足が深刻化している。
- 現在の果実の出荷規格は細分化されており、選別作業にとどまらず、収穫、箱詰め、在庫・出荷管理、販路・輸送確保等、出荷関連の広範囲な作業に労力が必要となっている。これを効率化・省力化するため、出荷規格の簡素化を進める必要があるのではないか。
- 近年、段ボール等の資材費の上昇や、輸送運賃の値上げ等により、流通コストが上昇しており、梱包資材等の見直し等による流通の効率化が必要ではないか。

○ 出荷規格（等級及び階級）の例（りんご）

等級規格（外観による分類）の例					
特選	特秀	秀	赤秀	○特	規格外・果汁

- ・上図の例においては、果実の形状や果皮の着色度合い、キズ、日焼け等の度合いにより、特秀～○特の5等級と規格外・果汁に分類

階級規格（大きさによる分類）の例								
20玉	24玉	26玉	28玉	32玉	36玉	40玉	46玉	50玉

- ・上図の例においては10kg詰め1箱あたりの玉数を20玉～50玉の9階級に分類

5等級×9階級＝45出荷規格

○ 野菜の包装資材及び出荷規格の簡素化事例（トマト）

- ・収穫最盛期（4～5月）の規格を8段階→2段階の混み出荷に簡素化
- ・出荷は専用コンテナを使用

○ 効果

- ・出荷に係る容器コスト **13分の1**
（従来）ダンボール14円/kg＋共同機械利用料38円/kg
（簡素化後）専用コンテナ利用料 4円/kg
- ・販売単価 **簡素化前より増加** ※量販店との協議必要
（従来）410円/kg→（簡素化後）432円/kg ※年平均
- ・**選果場の労力軽減**
- ・**1戸あたりの栽培面積の拡大**
（従来）46a→（簡素化後）49a

従来	簡素化
4L	大
3L	
2L	
L	
M	小
S	
2S	
3S	

○ 青果物の出荷規格・包装簡素化のメリット

方法	メリット
出荷規格数を減らす	選果に係る労力の軽減 出荷にかかる資材コスト・輸送コスト軽減
コンテナの使用や包装の簡素化	箱詰め等の労力軽減 梱包資材の簡素化や不使用によるコスト低減

○ 梱包資材等の見直しによる流通の効率化

○ プラスチックコンテナの活用

- ・使い捨ての段ボールと異なり、繰り返し使用可能
- ・展開が容易なため、作業負担が少ない
- ・コンテナの強度が高く、多段積載しても青果物が傷みにくい



○ パレット化による省力・作業の効率化

- ・運搬、積み込み作業の効率化が可能となり、輸送コスト（荷役待ち時間）が削減
- ・フォークリフト、パレタイザー等を活用することで、選果場等での青果物に運搬の省力化、効率化が可能



写真：農産物パレット推進協議会
運用実証委員会 実証実験より

【かんきつ産地における導入事例（A県B選果場）】

- ・パレットやプラスチックコンテナに対応した選果ラインを整備し、集出荷作業を効率化

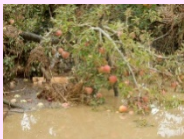
3 自然災害・気候変動・鳥獣害に強い産地づくり

- 近年、局地的な豪雨や地震、台風による大規模な災害が頻発しており、果樹産地においても甚大な被害が発生。
- また、近年頻発している異常気象（夏期の高温や日照不足）は果実生産・品質に大きく影響している。
- 鳥獣害について、農林水産被害は減少傾向で推移している。一方、イノシシ等の捕獲頭数は増加傾向で推移。
- これらの自然災害等に強い産地づくりが必要ではないか。

○ 近年発生した大規模な災害の事例

令和元年台風第19号

- ・令和元年10月に発生した台風第19号に伴う記録的な大雨による河川の氾濫により、**広範囲に及ぶ果樹園地が浸水し、果実だけでなく樹体も含めた甚大な被害**が発生。
- ・長野県の千曲川流域のりんご産地等では、長期間の浸水により、**経営面積の大部分で改植が必要**となり、改植を免れた園地でも、樹体に泥やゴミが付着し、**樹勢が衰弱**する被害が発生。



浸水したりんご園地(長野県)

平成30年7月豪雨被害

- ・平成30年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、農業被害が発生。
- ・特に愛媛県のかんきつ産地では、**園地の崩落や農道の寸断、かん水施設や農業用モノレールの損傷**などの被害が発生。



かんきつ園地崩落現場(愛媛県)

平成29年九州北部豪雨被害(7月)

- ・7月に発生した台風3号の影響と、停滞した梅雨前線により、**九州北部地域で豪雨が発生**。
- ・福岡県朝倉市や大分県日田市を中心に、**かき、なし、ぶどう等の園地で、洪水による崩落、土砂の流入**といった大規模な被害。
- ・朝倉市の**かき選果場内に土砂が流入**した事により選果ラインが一時停止し、他の選果場への横持ちで対応。



かき園地・樹体被害現場(福岡県)

○ 高温等の気候変動が果実品質に与える影響

【影響の例】

- ・うんしゅうみかんの浮皮、日焼け等
- ・りんごやぶどうの着色不良・着色遅延
- ・日本なしの発芽不良、みつ症 等



りんご着色期の平均気温の違いが果実の着色に及ぼす影響



ぶどうの着色不良



うんしゅうみかんの浮皮



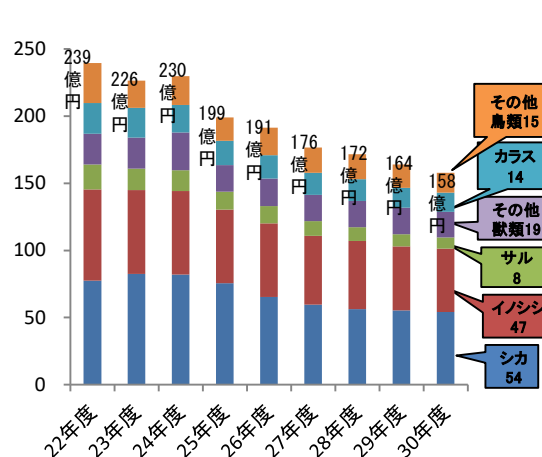
日本なしの発芽不良



日本なしのみつ症

○ 鳥獣害被害額並びにイノシシ捕獲頭数の推移

＜農作物被害額の推移＞



(捕獲頭数)

